

平成29年度 第1回津山・英田圏域地域医療構想調整会議 議事録

平成29年7月13日(木)

13:30～15:30

津山市総合福祉会館4階大会議室

<発言概要>

(議題)

医療提供体制の現状と課題について(病床機能報告を含む)

○議長(議事進行)

保健所の説明について、御質問・御意見があればお願いします。

○委員

病床機能報告では、1年前に比べて回復期病床が約90床減少している一方で、別の資料では、地域包括ケア病床が約30床増加しているとの数字を示された。この結果は理解したいが、どう考えていますか？

○保健所

病床機能報告は、各医療機関からの報告を集計した数字ですが、委員と同様のことを感じました。患者が混在しているなかで、病棟単位で病床区分の報告を求めていることも、病院からの報告を難しくしているのではないかとも思っています。

○議長

病床機能報告は確かに報告しづらい。報告の基準が明確になり、報告の精度が上がらな
いと、医療機能の分化・連携等についての議論の土台にはならないでしょう。

○保健所

病床機能報告の精度については、年々上がっていくと期待していますが、お困りの点は、
県を通じて国へ伝えてまいります。

○議長

介護保険指定事業所の説明があったが、委員の全てが福祉の用語を理解しているわけ
ではなく、用語の意味がわからないと議論も深まらないと思います。

○委員

地域で人と密接に繋がる活動をしている者としては、専門用語をわかりやく解説した別
資料を配布してもらえば、有意義な会議として参加できると思います。

○保健所

次回から、専門用語をわかりやすく説明する資料を準備します。

(議題)

岡山県病院協会津山支部協議会での報告

○議長

委員の説明について、御質問・御意見がありますか。

○委員

県は必要病床数ありきではないと言っているが、県知事権限は強くなっており、今後、この調整会議で「具体的な医療機関名」が、県から示されたりすることになるだろう。また、回復期が足りないと言うのであれば、高度急性期と急性期だけと報告している病院も、40人くらい回復期の患者が入院している場合は、今後、回復期病棟として報告しないといけないのかなとも思う。こうしたことも、支部協議会で議論していきたい。

○保健所

公的な場、自主的な場、その両方で議論を進めていただければありがたい。

○議長

資料に、医療計画と介護保険事業計画の整合性確保に向け協議の場とありますが、行政サイドは、今時点、何か考えていますか？

○保健所

協議の場については、国の方針がまだ示されていません。

(議題)

・第8次岡山県保健医療計画について

・地域医療介護総合確保基金について

(一括説明)

○議長

保健所の説明について、御意見、御質問があればお願いします。

○委員

第8次県保健医療計画は、介護保険事業計画との整合性を確保するとの説明ですが、県として、医療と介護が一緒にやっていくためのよいアイデアをお持ちでしょうか？

○保健所

療養病床から介護医療院等への転換見込みや、両計画の整合性確保の仕方などは、夏か秋頃に国から示される予定です。

○委員

介護医療院に転換すると介護保険適用となるので、医療提供者と介護保険者や介護事業者との協議が必要になると思いますが、保健所としては、どうしていくつもりでしょうか？

○保健所

この地域医療構想調整会議は、介護保険者である市町村の長にも委員になっていただい

ているので、そのあたりの整合性確保についても、この会議の場で議論していけるのではないかと考えています。

○委員

市町村は、地域包括システムの充実に取り組んでいるが、市（町・村）内の医療施設が年々減っていく状況がある中で在宅医療をどうすすめていくのか、ということが大きな課題となっているので、医療関係者の方々に相談させていただきたい。

○議長

医療施設だけでなく、訪問看護ステーションなど在宅医療の受け皿が、それぞれの地域に十分整備できているのか、これも検討していかなければならない。また、診療所の医師の年齢構成も高齢にシフトしていく。こうしたデータから、地域ごとの医療資源の実態を示していただきたい。

○保健所

本日は、資料1中に、旧市町村単位で、診療所の数と医師数、その年齢構成を示しているが、地域包括ケアシステムは、市町村域よりも小さな地域で考えられているので、お話の地域ごとの医療資源については、市町村の介護事業とリンクさせながら、どのように確保していくのかを検討していく必要があると考えています。

以上